

令和 6 年 3 月 13 日

足立区立栗原小学校
校長 田中 泰徳 様

足立区立栗原小学校
開かれた学校づくり協議会
会長 塚本 孝子

令和 6 年度 学校関係者評価

1 自己評価書全般について

重点 1—学力アクションプラン

学力向上については、今年度も十分な成果が得られていると感じる。百ます計算大会、一人一台端末による検索機能や AI ドリルの活用などにより、成果となって表れている。今後必須となる ICT 機器の活用についても、しっかりと取り組んでいる。このことは、以前からの継続的な取組や教員の研究・工夫、努力の賜物である。教員の意欲が子供たちに伝わり、学習意欲・姿勢の向上に良い影響を与えていると感じる。

一方で、読書量の減少傾向があることが課題であるとのことである。これが国語のテストで問題文の読み取りが浅いということに影響しているのではないかと。

今後は、このような成果と課題について正対し、子供たちへのサポートを教員に期待したい。

重点 2—豊かな心の育成

「挨拶」については例年課題となっている。できる子供にとっては当たり前のことであり、できない、不十分な子供については、挨拶の必要性・有用性を理解できていないのではないかとと思われる。声に出して挨拶することができなくとも、目と目を合わせ会釈するなど、コミュニケーションの第一歩として挨拶が大切であること、相手に伝わって初めてコミュニケーションが成立するということを、改めて指導してほしい。そのような意味で、「挨拶強化週間」があることは、この課題を解決するための方策として適切であると考えられる。

「人や環境との関わり」については、清掃活動や募金等を通じて、他者とのつながり、絆を育んでいけると考える。協議会も子供の登校時、危険な箇所で見守りを行うなかで子供たちに声をかけることで、人と人との関わりを大切にしようと努力している。挨拶が返ってくる子供とそうでない子供は半々くらいである。

「安全で美しい学校」については、学校全体として整理・整頓が以前よりも行き届いていると感じ一方で、子供たちは物を大切にするという意識も薄く、ゴミや落とし物に関心がないと感じる。当事者意識をもたせる指導が必要であると考えられる。

「いじめ防止および不登校への早期対応」については、大きな問題がないということで概ね評価できるが、協議会をはじめ地域等との連携という点で十分とは言えず、協議会として課題があると感じている。個人情報、守秘義務等の問題により、情報共有・連携が難しいところも多々あるが、学校・家庭だけで対応・解決できるものではなく、行政及び地域、医療等も含め多角的・多面的に対応・連携していかなければならないと考える。協議会において個人名等を伏せ事例検討をしてみてもどうかと考える。

重点 3—たくましい体の育成

校庭が狭い、遊ぶ場所や時間がないという現状はあるが、学校全体として体力の向上を図る取組がされていて、努力していることが分かる。また、ベジファーストの実施等食育についてもしっかりと指導されている。結果が十分に評価できるので、子供たちが楽しみながら体力向上できるように引き続き指導の工夫をしていただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

本校の職員は、保護者、地域に十分な理解と協力をいただき感謝している。「学校・保護者・地域」が三位一体となって子供たちに寄り添って育てていくことが不可欠である。本校の実態に合わせた連携手段をこれからも模索していくとともに、学校行事になるべく参加し、コミュニケーションが図れるよう努めていく。

3 その他

本校は教員がそれぞれの課題に対して一つ一つ克服している。このような素晴らしい学校のなかで生きづらさや孤独を感じる子供が出ないようにするとともに、満足な成果を得られない子供に対してのフォローも忘れずに指導にあたっていただきたいと思います。